

知祥

広報第249号



陸上競技部・高島咲季さん

創立八十一年目を迎えて

― 継続と変革に全力で ―

明德学園理事長 武井清忠



昨年、学園は創立八十周年を迎え、記念行事・式典など皆様のご支援、ご協力のもと無事に行うことが出来ましたことを感謝申し上げます。

文武においてさらなる向上を目指し、八十一年目がスタートいたしました。今、相洋は決意を新たに、本校の教育理念である校訓「質実剛健・勤勉努力」のもと、歴史と伝統を継承してまいります。そのためにも、教職員が一体となり更なる発展のために、今まで積み重ねてきた様々な事を検証し、継続と変革を全力で取り組まなければと強く感ずる次第であります。

活動に、様々な生徒会活動に、自分の目指す道に向かい黙々と努力しております。

クラブ活動においては、運動部・文化部を問わず、その結果は前年度を大幅に上回り、特に陸上部は世界陸上に高島咲季さんが、世界リレーにはクレイアーロン竜波君が出場をいたしました。また、日本選手権には男女とも三名が選出され(本校卒業生も三名、合わせて六名が出場)、優勝や上位入賞を果たし、インターハイにおいても四種目において優勝、女子は初めての学校対抗総合優勝をするなど大変輝かしい快挙を成し遂げてくれました。

さらに野球部は、春季・夏季の県大会とともにベスト8、秋季県大会においては三位に入賞するなど、大いに活躍し学園を盛り上げてくれ、久しぶりに全校応援を実施することができました。

吹奏楽部は初めて朝日新聞社賞を受賞(県一位)し、東関東大会にも出場、その結果全国大会にも出場が決まりました。例年インターハイに出場している男女ソフトテニス部、柔道部、水泳部、美術部は今年も出場し活躍、この他たくさんの方々が関東大会等に出場いたしました。

相洋はクラブ活動の活躍ばかりではありません。それぞれの生徒が勉学に取り組み姿勢は顕著なものがあります。

毎日の授業を大切に組み立てることはもちろんですが、学園も進路指導室の充実、放課後は誰でも利用可能な自学自習室を増設開放し、効果的な学習環境を整えました。本年、特進二年生は選抜クラスを単独に設置し、自らが希望する上位大学を一般受験で合格・進学を目指します。「ドラゴン桜プロジェクト」による生徒の意識向上やタブレットを用いた授業の取り込みなども始めました。今後もさらなる全体の学力向上に努める所存であります。

進路面においては、この数年間の大学合格者は、東京

大・東京工業大・横浜国立大・首都大東京・東京芸術大等を始めとする国公立大学、早稲田大・慶応義塾大・上智大・東京理科大学に合格するなど着実な成果を上げてきております。

世の風潮はとかく流れが速く何事にも改革、変革が求められる時代であります。人を育てる教育現場は時間がかかります。学園生活の中で文武両道を両立し、高い学力と自分の目指す道を見つけ、人間力を磨き、明るく健全な心豊かな人格形成を求めていきたいと思っております。ゆとりをもつて、一步一步真摯に着実に歩んでゆく姿こそが必要と考えております。私達教職員一同は共に力を合わせ、伝統と歴史のある相洋を、未来に向けて、さらに大きく発展できまよう誠心誠意努力する覚悟であります。何卒絶大なるご支援をお願い申し上げます。



令和元年度

カナダ語学研修

―受け継がれる国際交流教育―



七月八日(月)、私たちは成田空港からカナダへと出発しました。カナダに到着した初日は、英語の授業の舞台となるブリティッシュ・コロンビア州・ビクトリアにあるセント・マーガレット・スクールで、ホームステイ先からのお迎えを待ちました。学校の駐車場に止まった車からホストファミリーの方々が降りてきて、どの家族と一緒に過ごすことになるのだろうとこの時ばかりは生徒たちも不安気な顔をしていましたが、どの生徒

もホストファミリーの満面の笑顔に迎えられていきました。

カナダ研修期間中は、基本的に午前中は授業、午後は何らかのアクティビティ、夕方からはホームステイ先での生活をルーティンとして行動していきます。授業中は、生徒たちはみな、真剣に英語を吸収しようとしています。朝の挨拶も英語、授業内の説明も全て英語、慣れない生活からウトウトしてしまったり生徒を注意するのも英語です。現地の英語の先生から「せっかくカナダまで来ているんだから、休み時間も英語で話してみよう」と提案され、面食らった顔をした生徒もいました。日本にいる時とは環境が全く違って、生徒たちは英語漬けの毎日です。

お昼休みには、ホストファミリーに作ってもらったお弁当を食べます。多くの生徒は、サンドイッチと果物の昼食を持たされています。食事に関してはデリケートな問題もあるので、どうしても現地の味を受け入れられない生徒やパンケーキを食べると必ずおなかの調子を悪くする生徒もいました。美味しければ「美味しい」と伝える。食べられないなら「食べられません」としつかりホストファミリーに伝えることも大切なコミュニケーションで、勉強の一つなの

だ、と現地スタッフに教えていただいたことに、大いに励まされました。



午後は、ビクトリアのダウンタウンを散策したり、現地の高校生とスポーツをしたりと、座学ではなく体を動かしながら英語に触れていく時間です。店員さんに食べたいものを注文するのも、お土産に買って帰りたいグッズの説明を受ける際も、「だるまさんが転んだ」のルール説明も、全て英語です。お店で注文した料理がなかなか出てこない時には催促したり、チップを払う必要があったり、バスの運転手さんにお礼を言ったりなど、学ぶべきことは学校の外にも数多くありました。

こうして一日一日のスケジュールに向き合っている、三週間はあっという間に過ぎていきました。最終日の朝、生徒たちは集合場所

までホストファミリーに車で送ってもらって集合しました。車から荷物を降ろした後、ホストファミリーの方に、泣きながらお別れの挨拶をしている生徒もいました。十五日間も一緒に生活する中で、よい人間関係を築けていたようです。別れを惜しむ光景がこの日の集合場所の各所で見られました。今回の語学研修で、生徒たちは第一に英語を学びました。同時にこの研修には、文化・言語・通貨など、全てが生まれ育った場所と異なる場所におかれた時、どう行動すべきかという、「生きる力」を育む要素も多分にありました。カナダで過ごしたこの貴重な経験は、生徒たちの心の中に生き続け、必ずや人生の糧になってくれるものと思います。



(カナダ語学研修派遣副団長 庄崎公博)

特進コース 一貫コース 夏の合宿の成果に期待！

特進コース

八月二十二日(木)から二十五日(日)までの四日間、特進コース勉強合宿が、山梨石和温泉・ホテル甲斐路にて行われました。本年度は、一年生四十二名、二年生二十八名、三年生五十二名、合計一二二名が合宿に臨みました。コース全体の過半数が参加したのはここ十数年でもなかったことです。

今年度の勉強合宿は例年と違う点がいくつかありました。まずは例年二泊三日であったところを三泊四日に変更しました。また、会場を伊豆熱川から山梨石和温泉に変更しました。渋滞に巻き込まれなければ小田原から二時間半程度で到着するので、予想したよりもスムーズに到着致しました。

そしてもう一つ、本年度より二年生選抜クラスで導入している「リアルドラ



ゴン桜プロジェクト」から、現役東大生五名に協力してもらい、学習面のサポート、進路に関するアドバイスをいただきました。普段は二年選抜クラスを対象に展開しているドラゴン桜プロジェクトですが、この合宿では、一・三年生や選抜クラス以外の生徒にも、座談会や相談コーナーで東大生とじっくり語り合う時間を設けることができ、背中を押してもらったとやる気をみなぎらせる生徒が数多くいました。

自習を中心とし、集中講義を設置して並行して進めていくという例年通りの合宿計画に、ドラゴン桜プロジェクトを加え、さらに希望者は宿泊所近くのワイナリーに工場見学も行い、全行程終了後、全員で近くのぶどう園でバーベキューを食べ、大変充実した合宿を行うことができました。楽しいだけでなく実際に自習時間は四日間で二十六時間を超え、二学期以降の学習に向けて地力を養うことができたと思えます。

このような合宿が展開できるのも、保護者の皆様、学園をはじめとする多くの皆様のご理解とご協力のおかげです。心より御礼申し上げます。

(特進コース主事 佐藤大志)

中学・一貫コース



本年は七月二十八日(日)から三十一日(水)の三泊四日、箱根高原ホテルで中学・一貫コース学習合宿を実施しました。

例年通り中学校三年生から高校三年生までを対象に募集した結果、四十人の生徒が参加しました。

合宿の期間中は各学年の到達度に応じた二十二講座三十六時間の講義を実施した他、全教科で個別指導を受けられる質問室の開設をしました。講義については、英語・数学・国語・理科といった通常科目の他に、新入試について考えるような教科横断型講義も行いました。一日最低九時間、深夜学習を含めると十一時間の学習など、例年通りのプログラムで実施しまし

た。また昨年度に引き続き、各学年四名ずつのグループでのグループワークを行い、進路や勉強についての情報交換会を実施しました。さらに学習面のみならず、学習の最大の目的となる進路を考えるために、進路講演会を実施しました。この講演会は、受験を間近に控え、具体的な志望校選びの参考にしてもらうための高校二・三年生を対象とした講演会と、目標設定の大切さや入試制度の概要を知ってもらうための高校一年生以下を対象としたものの、二部構成で実施しました。パワーポイントを利用したわかりやすい説明は、多くの参加者から好評を得ました。今年度も勉強だけでは学習効率も上がらないのではないかとという考えから、リフレクシブタイムで体育館を利用したり、近くの芦ノ湖まで散策したりと、身体を動かす機会を設けました。

利用させていただいた施設は、講義室や質問室だけでなく、体育館もあり、生徒からも予想以上の好感が得られています。すべての講義室にプロジェクトが常備されており、施設もリノベーションされ、非常に快適でした。

今回のような合宿が毎年続くことで、今後も一貫コース学習合宿の盛り上がりが期待できます。今年も合宿終了後に行ったアンケート結果をもとに、来年度以降の合宿がよりよくなるために十分吟味し、さらなる検討を重ねていきたいと考えています。教員の気持ちと生徒の学習意欲が相乗効果をもたらすことで、素晴らしい合宿になるようにしていきたいと考えています。

(中学・一貫コース学習合宿担当 秋澤秀幸)

中学校行事

デイスカバリ キャンプ研究

七月二十五日(木)から二十七日(土)、神奈川県立足柄ふれあいの村(南足柄市)にて、中学二年生の総合学習であるデイスカバリーキャンプ(DC)研究が行われました。この行事は、野外炊事・キャンプファイヤー・プロジェクト足柄アドベンチャー(PAA)など校外での体験を通じて、自主的に物事に取り組む姿勢を養い、仲間との協調性、団結力を高めることを目的としています。

五月から、学年で八名の実行委員が毎週開かれる実行委員会において、スローガンやルール、各種企画の話し合いを重ねました。実行委員会で決まった今年のDC研究のスローガンは「絆く互いに協力して仲間(自分)の新たな姿を発見しよう」というもので、まさにDC研究の目的を表したものになりました。

DC研究のメインは、PAAによる冒険プログラムへの挑戦です。全員が心を一つにしなければ、フアシリテーター(インストラクター)から出される数々の課題をクリアすることはできません。失敗を繰り返しながらも互いに励ましあい、徐々に一体感を感じること

ができたようです。プログラムの最後に出された課題は難易度が高かったため、達成できた瞬間は大きな歓声が上がリ、仲間との絆の深まりを実感している様子でした。



退村式で、ふれあいの村の方に渡したお礼の寄せ書きや事後学習の作文には、生徒たちの思いが生き生きと表現され、充実した三日

間であったことがうかがえました。また、今年はキャンプファイヤーで発表した班ごとのスタンプ(出し物を、総合学習の成果として文化祭で披露することができ、生徒にとつてたいへんよい経験となりました。実行委員会の立ち上げから事後学習に至るまで、主体的に取り組む姿勢が一人ひとりの心の成長につながったように感じます。この行事で発見した「仲間と自分の新たな姿」を大切にし、三日間で得たものを今後の学校生活に活かしていくことを期待します。(中学DC研究担当 飯山詩織)

主張発表会

—今年度も充実したスピーチに—

第十一回相洋中学校主張発表会が、九月七日(土)、本校のスカイホールで行われました。

本年度も、一年生全員と二・三年生の有志見学者、また保護者の方々が見守る中、各クラスの代表者六名による、真剣で力強い主張発表が行われました。この発表会は、各クラス・各学年での発表をオープンにすることで、他学年のレベルの差や着眼点の違い、スピーチの仕方等を学ばせる目的で行っています。本年も、中学一年生から三年生まで全員が主張作文に取り組み、一学期中にクラスでの一分間スピーチも終了しました。

当日は矢田壮史朗(中一一)・大滝伊織(中一一)・田中智(中二一一)・窪嶋そら(中二一一)・中村

帆希(中三一一)・矢田隆太郎(中三一一)の順で発表を行い、司会進行を石田優太(中三一一)・落合留菜(中三一一)・飯沼龍臥(中二一一)の三名が務めました。



審査の結果は、二年生の田中と窪嶋が優秀賞に、そして、最優秀賞には、令和時代の到来に際し、将来世界で活躍する人間になりたという自らの決意を述べた、三年生矢田の「令和の時代が来た」と選ばれました。矢田の主張は、歴史上の人物のエピソードを交えながら、望ましい人間関係のあり方について「令和」の意味に寄り添って訴えかけ、新しい時代を切り拓いていくこうとする力強さを感じました。

今回も主張発表を見学する一年生の姿勢は良く、各発表者による内容も学年の差を感じさせない堂々としたスピーチが行われ、発表会全体がレベルの高いものとなりました。来年も優秀な発表を期待します。

(主張発表会担当 飯山詩織)



高校陸上競技部

男子八〇〇m・女子四〇〇m・
女子四〇〇mリレー・女子一六〇〇mリレー

四種目全国制覇！

—高島咲季、世界陸上選手権大会(ドーハ)出場—

第七十二回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(インターハイ)が、八月四日(日)から八日(木)の五日間、沖縄県総合運動公園陸上競技場(タピック県総ひやごんスタジアム)で行われました。

男子八〇〇m

優勝 シズロン竜波(特進一) 片瀬中

男子一六〇〇mリレー

三位 小田佳喜(文理二三 岡津中)

山本 毅(特進一一 平楽中)

阿部隆佑(商業一一 裾野東中)

シズロン竜波(特進一) 片瀬中

男子学校対抗

トラック七位・総合八位

女子二〇〇m

二位 高島咲季(特進一二 秋葉台中)

女子四〇〇m

優勝 高島咲季(特進一二 秋葉台中)

四位 川崎夏実(文理一二 久木中)

女子四〇〇mリレー

優勝 小川ひかり(特進一二 金沢中)

高島咲季(特進一二 秋葉台中)

金子ひとみ(文理十五 浦賀中)

石川 優(文理十四 成瀬中)

女子一六〇〇mリレー

優勝 川崎夏実(文理三二 久木中)

金子ひとみ(文理十五 浦賀中)



女子学校対抗

トラック優勝・総合優勝

岩本真菜(特進三二 洪沢中)
高島咲季(特進一二 秋葉台中)

第六十一回神奈川県高等学校新人陸上競技大会が、九月十四日(土)・十五日(日)は相模原麻溝公園

競技場(相模原ギオンスタジアム)、

九月二十一日(土)・二十二日(日)

は平塚競技場ShonanBMW

スタジアム平塚において、計四

日間行われました。

男子一〇〇m

四位 阿部隆佑(商業一一 裾野東中)

七位 松元一心(文理一二 池上中)

八位 高橋悠斗(文理一一 名瀬中)

男子二〇〇m

優勝 阿部隆佑(商業一一 裾野東中)

六位 松元一心(文理一二 池上中)

男子四〇〇m

優勝 小田佳喜(文理二三 岡津中)

男子一五〇〇m

四位 濱口直人(特進一三 池上中)

五位 大野悠翔(文理一一 成瀬中)

男子五〇〇m

四位 大野悠翔(文理一一 成瀬中)

七位 平島龍斗(文理一二 綾北中)

男子三〇〇m障害

三位 石塚颯太(特進一三 小鮎中)

七位 古山拓輝(文理一一 奈良中)

男子一六〇〇mリレー

優勝 松元一心(文理一二 池上中)

阿部隆佑(商業一一 裾野東中)

高橋悠斗(文理一一 名瀬中)

小田佳喜(文理一三 岡津中)

男子やり投げ

優勝 岡 泰我(文理一一 秋葉台中)

男子八種競技

優勝 岡 泰我(文理一一 秋葉台中)

四位 伊賀航太(文理一一 松田中)

男子学校対抗

トラック二位・混成優勝・総合二位

女子一〇〇m

優勝 石川 優(文理二一 成瀬中)

三位 鶴澤亜里紗(文理一一 舞岡中)

女子二〇〇m

優勝 石川 優(文理二四 成瀬中)

大会新

六位 安井麻里花(特進一一 東野中)

女子八〇〇m

二位 服部咲季(特進一一 藤ヶ岡中)

女子一〇〇m障害

優勝 安井麻里花(特進一一 東野中)

女子四〇〇mリレー

優勝 二宮綾音(特進一一 成瀬中)

石川 優(文理二四 成瀬中)

安井麻里花(特進一一 東野中)

鶴澤亜里紗(文理一一 舞岡中)

女子一六〇〇mリレー

二位 二宮綾音(特進一一 成瀬中)

石川 優(文理二四 成瀬中)

服部咲季(特進一一 藤ヶ岡中)

安井麻里花(特進一一 東野中)

女子学校対抗

トラック二位・総合三位

さらに、第十七回世界陸上競技

選手権大会が、九月二十八日(日)

本時間九月二十九日)にカタールの

ドーハにあるハリーフア国際ス

タジアムで行われ、高島咲季が

男女混合一六〇〇mリレーに出場

しました。

(陸上競技部顧問 馬場紅海)



クレイアーロン竜波・高島咲季 神奈川スポーツ賞受賞 —本校から二名同時受賞—

十一月三日（日・祝）、横浜市県民ホールにて、第六十八回神奈川文化賞・スポーツ賞の贈呈式が行われました。この神奈川スポーツ賞に、今年度は、本校陸上競技部のクレイアーロン竜波（特進三一・片瀬中）と、高島咲季（特進三十二・秋葉台中）の二名が選ばれるという、たいへん輝かしい快挙となりました。

この賞は毎年、神奈川県のスポーツ界において、その功績の顕著な個人または団体に対して贈られる

るものですが、今回、このスポーツ賞を受賞したのは四名、そのうち二名が本校陸上競技部三年生ということ、例のない、すばらしい榮譽となりました。またそれは、この二名を頂点とした本校陸上競技部の目覚ましい活躍が、神奈川県スポーツ振興に大いに寄与した功績が讃えられたものでもあります。



写真提供：『月刊陸上競技』

この六月、日本選手権八〇〇mを高校新記録で優勝し、この種目では史上初の高校生王者となったクレイアーロン竜波は、高校入学時にはまだ線が細く、ハードな練習や試合に耐えられるほどの身体はできていませんでした。しかし、練習前のストレッチは誰よりも入念に行い、身体のケアにも徹底して取り組み、また、トラックに一礼してからのスタイルを貫き通した結果、周囲からのプレッシャー

にも打ち克ち、四〇〇mから駅伝まで、幅広く活躍して数々の実績を残しました。

また、この八月のインターハイで、四〇〇mリレー・一六〇〇mリレー・四〇〇mで優勝、二〇〇m準優勝と、個人ではインターハイ史上過去最高得点を手にした高島咲季は、高校入学後、すぐに頭角を現し、一年時のインターハイ一六〇〇mリレー準優勝に貢献、



続けて二年時のインターハイでは四〇〇mリレーと一六〇〇mリレーの二冠達成。その後も強い身体づくりを心がけ、苦しい練習にも妥協しないで丈夫な土台を作り上げた結果、今夏の飛躍につながりました。また世界陸上競技大会に日本代表としても選出され、大いに活躍しました。

クレイアーロン竜波、高島咲季両名とも、今後のさらなる活躍に期待しています。今回のお神奈川スポーツ賞受賞、心よりお祝いしたいと思います。おめでとう。

（陸上競技部顧問 馬場紅海）



高校男子・女子ソフトテニス部

七月二十六日(金)から八月一日(木)、宮崎県宮崎市で全国高等学校総合体育大会が行われました。本校からは、個人戦では男子一チーム・女子二チームが出場しました。

「出場選手」

(男子)
小宮 佑希(特進三一・秦野北中)
和田 龍之(文理三一五・千代中)
(女子)
川嶋 菜結(特進三一・南が丘中)
伊東 未来(文理三一・大磯中)
藤田 愛美(文理三一・大住中)
大木 萌香(特進三一・成瀬中)

「結果」

(男子)
二回戦 小宮・和田 上早曲(長野)
三回戦 小宮・和田 文徳高(高地)
(女子)
一回戦 川嶋・伊東 名豊高(大分)
藤田・大木 北陸高(福井)
二回戦 川嶋・伊東 秋田西(秋田)
藤田・大木 札幌高(北海道)
三回戦 川嶋・伊東 和歌山(和歌山)
藤田・大木 東北高(宮城)
四回戦 川嶋・伊東 岡崎城西高(愛知)
藤田・大木 羽黒高(山形)
五回戦 川嶋・伊東 清栄高(広島)

出場した選手全員が三年生というところで、今大会が高校最後の全

国大会となりました。男子は三回戦進出、女子は四回戦・五回戦進出となりました。各選手が自分の力を最大限に発揮し、堂々とプレイすることができていました。今年度、団体戦での出場ができず悔しい大会となりましたが、来年こそは、個人・団体ともに出場し、上位進出ができるように日々精進してまいります。

最後に、応援してくださいました保護者会・後援会・OB会の皆様方に厚く御礼申し上げます。今後ともご声援、ご協力のほどよろしくご願ひ申し上げます。

(男子ソフトテニス部顧問 今井藤太)

高校 水泳部



六月二十一日(金)から二十三日(日)まで、水泳シーズンの幕開けとなる神奈川県高校総体が横浜国際プールにて開催され、昨年度インターハイ出場実績を持つ岩淵広虎(一貫三一・相洋中)が、二〇〇m背泳ぎ第三位・二〇〇mバタフライ第五位、また昨年度県大会で入賞した林田大輝(文理三一・有馬中)が、二〇〇m平泳ぎ

第五位と入賞を果たし、計三種目で関東大会出場権を獲得しました。

七月二十日(土)から二十二日(月)まで、山梨県小瀬スポーツ公園水泳場で開催された関東高校水泳競技大会では、兩名とも力泳を見せ、二〇〇m背泳ぎで全国大会標準記録を突破した岩淵が、二年連続となるインターハイ出場権を獲得しました。

八月十七日(土)から二十日(火)まで、熊本県・熊本市総合屋内プール(アクアドームくまもと)にて開催されたインターハイでは、岩淵は上位入賞こそありませんでしたが、全国の舞台で堂々とした泳ぎを見せてくれました。ご声援ならびにご支援、誠にありがとうございました。

(水泳部顧問 北林宏基)

中学・高校 柔道部

(中学柔道部)

神奈川県中学校柔道大会(兼全国・関東柔道大会県予選)が七月二十八日(日)・二十九日(月)、平塚市総合体育館にて行われました。

優勝 55kg級 井上 航(中三一)
第三位 60kg級 中村帆希(中三一)

第四十四回関東中学校柔道大会は、八月九日(金)、栃木県・県立県北体育館(大田原市)で行われました。

第三位 井上 航(中三一)

第五十回全国中学校柔道大会は、八月十七日(土)から八月二十日(火)まで兵庫県・ウインク武道館(姫路市)にて行われました。男子個人55kg級で出場した井上は、一回戦で積極的に攻め優勢な試合展開でしたが、残念ながら一本負けで敗退しました。

(高校柔道部)



全国高等学校総合体育大会が、八月十日(土)から十三日(火)まで、鹿児島県・鹿児島アリーナにて行われました。

女子個人78kg超級で小宮奈々(二貫三一・相洋中)が出場しました。一回戦は内股(技あり)と抑え込みによる合技一本勝ち、二回戦は横四方固めにより一本負けとなりました。

また、JOC全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が九月十三日(金)から十四日(土)まで、埼玉県・県立武道館(上尾市)で行われました。

女子個人57kg級で、込山未来(一貫三一・相洋中)が、七月に行われた関東ジュニアで準優勝し、この全日本大会へ出場しました。

初戦となる二回戦は、昨年インターハイ準優勝の大学生との対戦序盤から激しく攻め込み終始優勢な試合展開でしたが、試合終了間際に技ありを取られ敗退しました。この夏、中学・高校生が出場できるすべての上位大会に出場できたことは、日頃の部員たちの努力のたまものです。今後も上位を目指して頑張っていきます。

最後に、学園・保護者会・同窓会・柔友会・柔道部卒業生の保護者の皆様には、多くのご支援、ご声援をいただきありがとうございます。今後も全国・関東大会を目指して頑張りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(柔道部顧問 込山 清)

中学・高校 空手道部

中学校では創部八年目、高校では五年目を迎え、部員四十五名で関東・全国大会出場を目標に活動しています。

高校では関東大会県予選を勝ち抜き、関東大会(四年連続四回目)に出場いたしました。

【出場選手】

高橋ひなた(特進三二二・酒匂中)
竹下 凜(特進二二二・原 中)
原 愛恵(文理三二二・二宮中)
柳沢美早紀(一貫三二二・相洋中)
山本 彩未(一貫二二二・相洋中)
大塚 美波(一貫二二二・相洋中)
(女子団体戦・形競技)

一回戦 0ー5 山梨県
試合直前までチームで練習を繰り返し、ベストを尽くしましたが

敗退しました。大会までの間、練習に打ち込み自信をつけ、堂々とした姿勢で戦うことができました。中学校では全国大会への出場を惜しくも逃し、十月に行われます関東大会に向けて夏季合宿や県外への遠征を積み準備を整えているところです。



【出場選手】

(女子)
川村みいな(中学三二二)
川野さくら(中学三二二)
田中 笑瑚(中学二二二)
峯島 菜摘(中学二二二)

最後に、学園・保護者会・卒業生の保護者の皆様には、多くのご支援、ご声援をいただきありがとうございます。これからも全国・関東大会を目標に頑張りますので、よろしくお願ひ申し上げます。(空手道部顧問 伊藤善彦)

高校弓道部

八月十七日(土)・十八日(日)に、福岡県久留米市・久留米アリーナで、第二十一回紫灘旗全国高校遠征大会が開催され、神奈川県代表として男女ともに出場しました。

【大会登録選手】

(女子)
中村彩音(一貫三二二・相洋中)
内田彩花特進三二二・中沢中
原田紗希特進三二二・国府中
秋山瑞樹進学三二二・江陽中
(男子)
田村大樹(文理三二二・大根中)
庭山 豪文理三二四・大磯中
松平和貴特進二二二・白山中
後藤和之特進二二二・南足柄中



遠的は長径1mの的を距離60mから射る競技ですが、男子は予選二十四射十中で予選敗退となり

ました。女子は二十四射十四中と好成績の中で、予選上位八チームによる決勝トーナメント戦に進出することが出来ました。決勝トーナメント一回戦では、この大会で優勝した鹿児島県・加治木工高と対戦になりました。緊張感の中、選手たちは頑張りましたが、的中が伸びずに、十二射五中对八中で敗れました。その結果、第五位入賞という成績となりました。



八月二十五日(日)には、国体関東ブロック大会弓道競技が、千葉市で開催され、北田琴乃(進学三二二・町田南中)が、少年女子の部に本県代表選手として出場しました。この試合は、近的と遠的を同時に行う難しい競技ながら、よく奮闘してくれました。残念ながら総合六位となり、国体への出場はなりませんでした。

また九月八日(日)、明治神宮至誠館弓道場での、第三十八回関東高校弓道個人選抜大会にも出場しました。予選・準決勝と順調に的中をあげ決勝戦に進みました。決勝戦では、競射一本目をわずかに外し惜敗しましたが、これらの大会を通して、部員たちは貴重

な経験をしたことと思います。これをさらなる飛躍につなげて欲しいと願っています。そして、今後とも弓道部の活動に、応援を宜しくお願い申し上げます。

(弓道部顧問 久谷航平 城所 巧)

高校 和太鼓部

和太鼓部は、今年で創部三十周年を迎え、六月十六日(日)には南足柄市文化会館にて三十周年記念公演「鼓動30th」を開催しました。今回は記念公演として、現役部員だけでなく卒業生も出演し、総勢一〇〇人を超える演者が集い、練習に励んできました。当日は満員御礼となり約二時間半、和太鼓の演奏を存分に堪能していただきました。



また、七月二十八日(日)には、全国屈指の太鼓団体が参加をする第三十二回国宝松本城太鼓まつり(長野県松本市)に出演しました。松本城を背にした特設ステージにて、本校和太鼓部は、楽しい雰囲気でも軽快な十八番「えっさ!小田原」と、過去全国大会を制した力強く壮大な「天翔ける龍」を演奏しました。部員はじめ演者たちの演奏は、これまでの練習の成果を発揮し、迫力ある相洋太鼓らしい演奏を披露することができ、会場から大きな拍手と歓声をいただきました。

これまでにご来場いただいたお客様、関係者の皆様には感謝を申し上げますとともに、二年生・一年生は、十二月の全国大会予選に向けて精進していきます。今後も和太鼓部に、益々のご声援をお願いいたします。

(和太鼓部顧問 田島和幸)

高校 美術部

七月二十七日(土)から三十日(火)にかけて佐賀県で開催された第四十三回全国高校総合文化祭・美術工芸部門に、本校美術部の岩本将太(進学三一・高浜中)の作品が、県代表の作品として出品されました。この全国高校総合文化祭美術工芸部門の出品作品は、前年十二月に開催された、第六十五回神奈川県高等学校美術展に出品された作品約六〇〇点のうちから十四点が選出されます。本校の生徒の作品が選出されたのは、三年

ぶり四回目となりました。現地では、大会行事である部門開会式や、交流会が実施され、本校美術部員も参加してきました。交流会では、大会初日に同じ班になった生徒同士で、カードゲームを通じて自己紹介をしたのち、展示会場である佐賀県立美術館・博物館にて、お互いが自身の作品のプレゼンテーションを行い、それ



全国大会で作品をプレゼンする岩本将太

を鑑賞しました。そして大会二日目には、初日の班をもとに多少のメンバーの入れ替えをした後、そのメンバーで、ストップモーションアニメーションの講習を受講し、約四時間をかけて二分程度のアニメーション作品の制作を行いました。約二日間の短い時間ではありましたが、活動を共にし、お互いに影響し合いながら親睦を深めることができました。

また、八月二十日(火)に、県立青少年センターにて神奈川県文化フェスタが開催され、先の県高等学校

校美術展において出品作品に選出された、望月萌未(文理三一・白鷗中)の作品が展示されました。また本人も当日の会場スタッフとして参加し、来場されたお客様に対して、自身の作品を含めた展示作品の案内や、他校のスタッフ生徒との交流、また他部門の発表などを鑑賞しました。

(美術部顧問 伊勢岳彦)

高校 吹奏楽部

吹奏楽部は、七月二十八日(日)、秦野市文化会館にて開催された吹奏楽コンクール西湘地区大会高校





19.

B部門に出場し、「金賞」を受賞、四年連続となる西湘地区代表に推薦されました。その結果八月十日(土)、カツルツ川崎にて開催された吹奏楽コンクール神奈川県大会に出場して「金賞」を受賞、並びに最優秀団体に贈られる「朝日新聞社賞」を受賞し、二年振りとなる神奈川県代表に推薦されました。そして九月十四日(土)、千葉県文化会館にて開催された東関東吹奏楽コンクールに神奈川県代表として、出場し「銀賞」を受賞しました。また、九月二十三日(月・祝)から九月二十七日(金)に行われた日本管楽合奏コンテスト予選審査会では最優秀賞を受賞、十一月四日(祝・月)に文京シビックホールにて開催される、日本管楽合奏コンテスト全国大会に、二年連続となる神奈川県代表として推薦されました。

今後、東関東大会・東日本大会・全国大会といった上位大会への出場を目指して頑張りますので、よろしくご願ひ申し上げます。
また、今後の活動として、一年間の活動の集大成である定期演奏会があります。昨年同様に小田原市民会館での開催を予定していますので、ぜひ足を運んでいただければ幸いです。
最後に、応援・ご協力くださいました、保護者会・同窓会・教職員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(吹奏楽部顧問 井上 哲)

高校 野球部



第一〇一回神奈川県選手権大会が、七月七日(日)に横浜スタジアムで開幕されました。本校は第二シードなので、七月十五日(月・祝)の二回戦からの試合になりました。大会は、サティーフオー相模原球場、平塚球場、保土ヶ谷球場、横浜スタジアムで行われました。

二回戦 相洋 一〇―〇(富田生藤浜総合)

三回戦 相洋 四―〇 武相高

四回戦 相洋 四―一 伊志田高

五回戦 相洋 五―一 戸塚高

準々決勝 相洋 二―五 東海大相模高

春季大会に続き選手権大会においても、準々決勝で東海大相模に



惜敗し、ベスト8という結果になりました。今大会は初戦のゴールドゲーム以外、非常に苦しいゲーム展開で、ピンチを招く場面が多くありましたが辛抱強く守り、攻撃につなげて、少ないチャンスを掴んだゲームでした。特に戸塚高との五回戦では、序盤に失策が重

なり、三点を先取されながらも粘り強く戦い、最後にサヨナラで勝利することができました。粘り強く、劣勢に強く、終盤に強くなるうと春から鍛えてきたことが実を結んだ大会になりました。しかし準々決勝の東海大相模戦では、スコアを見ると善戦したように見えますが、完全に力の差を見せつけられたゲーム内容でした。三年生はこの大会が最後になってしまいました。皆さんの財産を下級生たちに残してくれました。下級生たちは上級生のバトンをしっかり引き継ぎ、さらに具体的に目標を設定して努力していきます。秋季大会も関東大会出場、その先の選抜甲子園を目指し精進してまいりますので、ご声援よろしくお願ひ致します。



校歌を高らかに唄う部員

(野球部部长 吉成 徹)

令和元年度 チャリティーコンサート

― 義援金全額を神奈川新聞厚生文化事業に寄附 ―



杉崎 朗 高校長

六月二十二日(土)、松田町民文化センターにて「相洋中高チャリティーコンサート2019」を開催いたしました。本校のチャリティー事業の一環で、コンサートという形式に変わってから、今回で六回目の実施となります。当日は、雨が降ったりやんだりというあいにくの天候でしたが、約五〇〇名の方々のご来場がありました。私たち教職員は、初めて小田原以外の町で開催されるコンサートということもあり、不安と緊張がいつも以上にありました。しかし、生徒たちにはそんな不安や緊張は一切関係なかったようです。ホワイエでの作品展示では、お客様に一生懸命作品の解説をしている書道部の生徒たち。また美術部の作品が表紙になっているパンフレットを手にとり、客席に進むお客様を笑顔で誘導している各クラブの生徒たちなど、小田原で開催している時と全く同じ様子で運営している姿を見ることができ、頼もしく感じました。

今年、松田町に初めてお邪魔するということもあり、本校のチャリティー事業の歴史を紹介しながら、様々なクラブが日常的に行っている活動を見ていただくという試みで、進行していききました。各参加団体は、自分たちが「今」できる精一杯のことを、各自の持ち時間の中で表現しようと頑張ってくれました。



中学生徒会



ファイナーレでは、全参加団体で「栄光の架け橋」を歌い、会場が一つになって大きな盛り上がりを見せました。本校の地道な取り組みや、生徒たちのこのコンサートにかける想いが、ご来場された方々にも伝わったのだと感激しました。



高校生徒会



このコンサートをとおして、学園中学生・高校生の地域貢献やボランティア活動を、一人でも多くの方に知っていただきたい、また今後も継続的に活動し、チャリティーやボランティアの意義を、生徒たちの中でもしっかりと引き

継いでいかなければという想いを強くしました。
義捐金総額は270,827円となり、全額を本校生徒会をとおして、神奈川県厚生文化事業団に寄附をさせていただきました。紙面上ではあります。ご協力いただいたお客様、関係各位に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
(総務部主任 米山邦浩)



令和元年度 相洋祭開催

「Wonderful for us」楽しもう、一度しか無いの時を

高校文化祭



準備をしました。昨年度は生徒会企画で「階段アート」を行いました。今年度は以前よりパワーアップした「階段アート」を行いました。各クラスからはSNS映えを意識したフォトブースがいくつも作られ、文化祭を盛り上げました。また、ICT機器を活用したドラゴンカフェ(特進二一)も登場し、iPadを使ったクイズが行われ、二日間を通してずっと大盛況でした。我々教員がICTに対応するのに必死な中、生徒たちのICT機器活用の適応力、自由な発想力に感心せずにはいられませんでした。

今年度は台風の影響による時間短縮のため、エンディングセレモニーも、予定していたすべてのはできませんでしたが、寒川怜苑(進学二一四)の即興マイクパフォーマンスによるカウントダウンは、これまでに勝るとも劣らないほど賑やかなものになったと思います。生徒からもエンディングセレモニーを行うことができてよかったとの声も聞くことができ、生徒にとつてこのセレモニーは、文化祭の一大イベントにすっかり定着していると感じました。また、文化祭後の片づけでは、特進三年生・進学三年生がそれぞれ中心となって学校内のごみ箱の処理や、

九月七日(土)、八日(日)にクラス四十・クラブ二十二・有志五団体の参加で、盛大に文化祭を開催しました。
今年度は、四月から実行委員会を組織し、運営・準備に主体的に関わる生徒会をはじめ、香川隼人(二貫二一)を中心に一生懸命活動し、文化祭を盛り上げるための

中庭グラウンドのごみ拾いを率先して行っていたことが、とても印象的でした。やる時はしつかりやるといふ相洋生のすばらしい一面を垣間見ることができ、とても嬉しい気持ちになりました。
今年度の文化祭も、昨年と変わらず多くのお客様、またOB・OGの皆様にご来校頂き、無事に開催することができました。今後も多くの方々に楽しんでいただけるよう、生徒と共に充実した文化祭を企画していきたいと思えます。
この場をお借りして、関係各位にお礼申し上げます。
(生徒会指導主任 富塚博史)

中学文化祭



中学の文化祭は、高校と同じ日程で行われますが、高校からは独立した内容で開催されています。文化部の日々の活動成果を発表する場だけでなく、中学主張発表会や自由研究発表・展示は中学独自の取り組みです。

自由研究発表は、全校生徒が取り組みます。一学期のうちにテーマを決め、担当の先生との打ち合わせを重ねて研究を進めました。これを機に、生徒は自らの見識を深めることができました。

中学相洋祭は、生徒会が企画する最も大きな行事です。今年度は全校生徒参加型で何かできないかと、文化祭当日のスタンプラリー企画と、全校生徒による手形作品を作りました。各々の手形の中には、学校への思いや行事の思い出などを書き込みました。生徒会では、模造紙八枚もなった手形の輪を、「相洋の輪」と題して、行事の写真なども貼り付けて一つの作品にして展示しました。また当日には、今年度のユニセフ募金の一貫として、生徒会が模造紙に一本の幹を描き、来場された方がここに様々な色で手形を押すことで、多くの花を咲かせる形になりました。文化祭が終わる頃には、「平和の木」が完成し、集まった募金はユニセフへ送らせていただきました。

四号館前に設置された屋外特設ステージでは、オーブニングセレモニーや部活動発表を行いました。台風の影響で、二日目の発表は四号館内で行われましたが、三年生の有志によるダンスや音楽部の発

表では、大きな拍手が起り、D
C研究スタンプ発表では、二年生
がダンスや演劇を披露して、観客
の喝采や笑いを誘っていました。
すべての発表を中止することなく
無事に行うことができたことが、
何よりありがたいことでした。
様々な活動を通し、生徒たちは視
野を広げ、友人の新たな一面を知
るきっかけになったようです。
生徒たちの活躍により、今年度
の中学相洋祭も、大盛況のうちに
終わりました。これも保護者の皆
様のご支援とご協力のおかげです
この場をお借りして、御礼申し上
げます。

(中学生徒会顧問 佐々木華子)

高校体育祭

九月二十七日(金)に体育祭が
行われました。今年度はラグビー
ワールドカップの影響で城山競技
場が使用できず、小田原アリーナ
で行われました。

今年も一学期のうちから体育祭
実行委員会がスタートし、一生懸
命準備をしていきました。アリー
ナでの開催とあって、競技種目の
検討が必要となり、例年よりも準
備に多くの時間を要しました。種
目検討の際には様々なアイデア
が出され、活発に議論が交わされ
ました。多種多様な意見をまとめ
る生徒会の三年生は頼もしく、一
回り成長した姿をみることができ
ました。
体育祭当日は、ほぼ予定通りに

競技を進めることができました。
見ごたえのある一年生集団演技を
はじめ、絆を確かめあつた学年種
目、華やかなパフォーマンスの応
援団などにより、場内は拍手の連
続でした。そして最終種目の色別
対抗リレーでは、気持ちの入った
実況松本和太(特進三十二)の名
パフォーマンスや、迫力ある陸上
部の走りで大いに盛り上がりを見
せました。

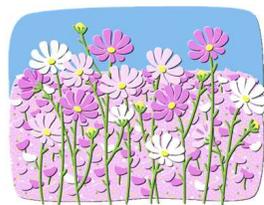


今回の体育祭は室内というこ
ともあり、迫力に欠けるのではな
いかとの不安がありました。ラ
グビー日本代表の試合に負けず劣
らずの盛り上がりとなりました。



今後、生き生きとした生徒
たちの姿を見ることができ
る体育祭を、ともにつくって
いきたいと思えます。最後に
体育祭の成功にご尽力いた
だいた関係各位に御礼申し
上げます。

(生徒会顧問 刑部修平)



編集後記

長い旅であった。四月の終わり、
あの長かった連休あたりからスタ
ートし、半年ほどかけて、ようやく
ゴールが見えてきた。途中、様々
な起伏があり、泣きも笑いもし、
しかし継続することで初めて見え
てくる、深く大きな意味。それ
はこの旅を続けた者にしかわから
ない、いわばビルドゥングス・ロ
マンとしての心の軌跡だ。青春時
代ならともかく、今になってもま
だこういう体験ができることは、
ひとえに神に感謝せねばなるま
い。

この旅が終わったら、また次の
旅が待っている。その旅もきつと
長く険しいものになるだろう。半
年か、もしかしらそれ以上かか
るかもしれない。今度の東京オリ
ンピックの頃までには旅を終えて
いるだろうか。いや僕にとっては、
五輪よりも大事なものがあ
る。五輪よりも…ビルドゥング
ス・ロマン、心の軌跡…そして
「旅」とは？

ここで、おこがましくも旅の詳
細を紹介しよう。まず第一の旅
——「仮面ライダー」を初代から
ストロンガーまで全話通して観る
こと。先に書いた通りこれはもう
すぐ終わる。ライダーだからこそ
の、五輪よりも、だ。そして第二
の旅——「帰ってきたウルトラマ
ン」から「ウルトラマンレオ」ま
でをやはり全話通して観ること。
体ごと物語に没入する忘我の境
地。体ごと？いや夕飯食べながら
です。

(学園広報編集担当 三野知之)

令和2年度生徒募集

相洋中学校『学校説明会』のご案内

令和2年度の生徒募集にあたり、中学校の教育方針と教育内容、募集要項、入試についてご説明いたします。 電話：中学専用 0465-23-0214

日時 ☆令和元年11月3日(日)、12月8日(日)
いずれも午前10時から 於 スカイホール

	第 1 回		第 2 回		第 3 回
	A	B	A	B	
募集人員	30名(男・女)	20名(男・女)	20名(男・女)	10名(男・女)	10名(男・女)
出願期間	令和2年1月6日(月)～ 1月31日(金)	令和2年1月6日(月)～ 2月1日(土)	令和2年1月6日(月)～ 2月2日(日)	令和2年1月6日(月)～ 2月2日(日)	令和2年1月6日(月)～ 2月4日(火)
出願手続	I インターネット出願の場合 本校HPをご覧ください II 本行窓口に出願の場合 ①入学志願票 (本校指定の用紙) ②写真1枚 入学志願票に貼付タテ4cm×ヨコ3cm (白黒・カラーいずれも可) ③6年次1学期・2学期または前期までの通知表裏の写し。(複数回受験者は初回時のみ提出) ④入学検定料 24,000円 (同時出願の場合は34,000円ですべての回に出願する事が出来ます)				
試験日	2月1日(土) 午前8時30分～	2月1日(土) 午後3時10分～	2月2日(日) 午前8時30分～	2月2日(日) 午後3時10分～	2月4日(火) 午前8時30分～
合格発表	2月1日(土)	2月1日(土)・2日(日)	2月2日(日)	2月2日(日)・3日(月)	2月4日(火)

※窓口では1月12日、13日(日・祝)、19日、26日の日曜日の受付は行いません。※合格発表は、時間指定で発表いたします。詳細は入学試験要項をご覧ください。

相洋高等学校『入試説明会』のご案内

中学生とその保護者を対象にした令和2年度生「入試説明会」を開催いたします。

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加ください。〈インターネット申込み <https://www.soyo.ac.jp>〉

令和元年11月10日(日)10:00～、14:00～ 11月16日(土)14:00～
11月23日(土・祝)14:00～ 11月30日(土)14:00～
於 相洋高等学校体育館

	推薦試験	一般試験	チャレンジ・二次試験
試験日	令和2年1月22日(水)	令和2年2月10日(月)	令和2年3月2日(月)
出願資格	令和2年3月中学校卒業見込みで、本校の教育方針と校則に従って、生徒の本分を守り勉学に精励する意志のある生徒 在学中学校長の推薦した 本校のみを受験する生徒		
募集人員	*普通科 特進コース 選抜… 5名 特進… 25名 文理コース 理科… 30名 文科… 60名 進学コース… 60名 *商業科(情報処理)… 20名	*普通科 特進コース 選抜… 20名 特進… 55名 文理コース 理科… 60名 文科… 120名 進学コース… 125名 *商業科(情報処理)… 20名	普通科 特進コース 選抜… 5名 特進… 5名 文理コース 理科… 5名 文科… 5名 進学コース… 5名 商業科(情報処理)… 5名
出願受付	令和2年1月16日(木)～1月18日(土) 郵送で当日消印有効	令和2年1月24日(金)～1月31日(金) 郵送で必着	令和2年2月17日(月)～3月1日(日) 試験当日3月2日(月)は窓口受け付け7:30～6:30 *書類は、試験当日事務センターに提出
提出書類	入学志願票、調査書、推薦書	入学志願票、調査書	入学志願票、調査書(推薦、一般試験受験者は不要)
試験科目	・作文 9:00より ・面接 10:00より ※受験票・筆記用具・上履き持参	・筆記試験/国語・数学・英語 9:00より ・面接 13:00より ※受験票・筆記用具・上履き・昼食持参	・筆記試験/国語・数学・英語 9:00より ・面接 12:00より ※受験票・筆記用具・上履き持参
合格発表	令和2年1月22日(水) 可否結果を1月23日(木)必着で本人宛郵送します。	令和2年2月10日(月) 可否結果を2月11日(火)必着で本人宛郵送します。	令和2年3月3日(火) 可否結果を本人宛に郵送します
学費・諸経費	入学金 240,000円 施設費 150,000円 授業料月額 33,000円(2か月分を4・6・8・10・12・2月に納入) 教育充実費(2年4月・3年4月に分けて納入)、生徒会費・保護者会費(4月・10月の2期に分けて納入)、同窓会費(1年次4月のみ納入)などの諸経費が入学後納入になります。		
入学手続	令和2年1月24日(金)～27日(月)の期間内に入学金・施設費合計390,000円を「ゆうちょ銀行」で払い込んでください	[専願] 令和2年2月12日(水)・13日(木)の2日間で入学金・施設費合計390,000円を「ゆうちょ銀行」で払い込んでください [併願] 令和2年2月29日(土)～3月3日(火)の期間内に入学金・施設費合計390,000円を「ゆうちょ銀行」で払い込んでください	令和2年3月4日(水)・5日(木)の2日間で入学金・施設費合計390,000円を「ゆうちょ銀行」で払い込んでください
奨学生制度	学業奨学生制度はありません	特進コースを志願し、難関大学に進学する意思を持ち、身体強健・品行方正・学業成績が特に優秀な生徒 第1種 入学金・施設費・教育充実費・授業料1年次相当額を支給 第2種 入学金・施設費・教育充実費・相当額を支給 ※第1種・第2種とも入試結果により、最高3年次までの授業料相当額を支給します	特進コース(選抜クラス・特進クラス)合格者の中で、入試結果が極めて優秀な生徒には奨学金を支給します
	運動能力・学業・人柄共に優れた生徒に対し、本校部活動顧問の推薦によるクラブ奨学生制度があります。なお、硬式野球部については、奨学生対象者は5名を限度とし所属中学校長の推薦書が必要です。		適用はありません

学校法人 明德学園 相洋中・高等学校